

目次

1. 巻頭随筆：統計教育雑感 ……………白旗慎吾… 1	5. シリーズ：統計学の現状と今後「空間データの 分析法の現状と問題」 ……………松田安昌… 7
2. 2010年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報) —企画セッションの公募— ……………稲葉敏夫, 吉村 宰, 椿 広計… 3	6. 海外研修記「スタンフォード滞在記」 ……………二宮嘉行… 8
2.1 2010年度統計関連学会連合大会について …… 3	7. 日本経済学会連合からのお知らせ ……………坂野慎哉, 西郷 浩…10
2.2 企画セッションの公募…………… 3	8. 評議員会議事録 ……………10
2.3 その他の準備状況のご報告…………… 3	9. 理事会議事録 ……………12
3. 日本統計学会春季集会2010開催案内 ……………岩崎 学, 稲葉由之… 4	10. 研究集会案内 ……………14
4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について ……………岩崎 学… 5	11. 新刊紹介 ……………14
	12. 学会事務局から ……………14
	13. 投稿のお願い ……………15

1. 巻頭随筆：統計教育雑感

白旗 慎吾 (大阪大学)

TAやオープン・キャンパスなど勉強のじゃまにしかならぬ行事に無理矢理引っ張り出されることもなく(今は無理矢理引っ張り出しています, 院生諸君, すまん), 大学院で伸び伸びと勉強していました. 国立大学は授業料も安かったのです. それでも将来が心配になった頃, 昭和49年に九州大学の工藤昭夫先生に助手に採用していただきました. ただし, 九州大学では工藤先生や柳川堯先生の講義の演習を担当しただけで, 大隈彰道先生や神戸大学の垣内逸郎君, 当時大学院生だった韓国・東亜大学の崔在龍先生, 坂田年男君, 野間口謙太郎君たちと, 勉強したり, 麻雀したりと楽しくすごしました. 昔は, 助手は一応大学教官ですが, 週に一度の演習をやるていどがノルマで, セミナーと研究はほとんど自主裁量で大変に自由で

した. メールやインターネットもなく, したがって雑用が勝手に押しかけてくることもなし. 大学院生は基本的に大学などの研究機関を目指しているので, 自分で勝手にテーマを決めて勉強します. 「何を勉強すればいいでしょうか」などという大学院生もおらず, というより下手な助言には, 「好きに勉強しているんだから放っておいてくれ」という反応です. 助手の身分は, 給料が安いのをのぞけば天国でした. 現在の助教, 助手から助教に名前が変わったのは, 単に仕事をさせやすいからであって, 雑務に押し殺されそうで, 気の毒の限りです. 当時は教授・助教授も教室主任や執行部に入ったりでもしなければ, 研究と教育にほぼ専念できました. 大阪大学の恩師, 丘本正先生も雑用に追われているようには全く見えませんでした.

た。

やっと教育らしいことを担当するようになったのは昭和52年に、恩師の高松俊朗先生に大阪大学の教養部に呼び戻されてからです。それ以後今日まで大阪大学の中を基礎工学部と教養部を歩き来しましたが、終始、教養部・共通教育の統計学を担当してきました。当時の大阪大教養部の教養科目は人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目、語学、保健体育の5本建て。統計学は経済学や社会学と同じグループを作って社会科学系に分類され、すべての学部が開講され、かつすべて通年科目で、半期単位では約30コマも開講していました。現在は、委員をしてもよく分からないほど細分されています。統計学は専門基礎科目（理系）に分類されています。

初等統計の講義のやり方にはいろいろの意見があります。学生の興味を引くために実際データの例やその解析から始めるべきだ、という意見や、きっちりと基礎からマスターするために初等確率論や分布論から始めるべきだ、という意見です。私はどちらかというとき後者の立場ですが、昔は、通年科目なのでどちらで始めてもある程度は両方をカバーできました。学生も素直で、オリエンテーションで学科の教官から、（たとえ選択科目の場合でも）統計学を受講するよう勧められると、それに従い、かつ真面目な学生がほとんどでした。たまに勉強不足で不合格になってもあっさりあきらめます。現在でも、多くの学部で統計学の受講が望ましいと指導されていますが、学生の多くはあっさり脱落し、それでいて単位取得だけでは執念を燃やします。

現在は、大してやる気のない学生にまず媚びて、いかに統計学が面白いのか、役に立つのか、を訴えて時間をつぶし、かつちゃんと要求水準まで授業せよ、という無理難題。我々は吉本の芸人以上に受けねらいを要求されているようにさえ思えます。かつ、講義は基本的に半年単位で、データ解析を重視すると、単に計算プロセスの紹介に終わりかねず、どんなデータでも習った公式にぶち込む、という輩が続出し、基礎を重視するとデータ解析

の例を紹介する時間が足りない、という羽目に陥っています。基礎が理解できていないうちに専門科目が過剰に1年生、2年生に降りてきて開講され、一部の優秀な学生以外は理解不足のまま進級していきます。例えば、最小2乗法を習わないうちに物理実験や化学実験のデータで回帰直線を引いたり、数学でも微分方程式を習わないうちに力学の講義が始まったり。講義のコマ数も半減しました。そのかわりに一クラスの受講生数はかなり増え、多くの講義で100名以上に上ります。

しかし統計学の講義が減って失業の危機にあるのかというと（少なくとも大阪大学では）そうではありません。統計学関連の教員がいる学部では、教養部の統計学は専門科目に引き上げられており、共通教育でも統計学の講義を増やすようにいろいろの圧力があります。また、コンピュータ・リテラシーと同様にデータ解析リテラシーを全学生必修にしよう、という動きも一部であります。手さえ挙げればいくらかでも講義需要はあります。もしかしたら統計学スタッフ増員のチャンスかも知れません。

教養部廃止後は学部の講義が増えました。大学院重点化後は私の所属する基礎工学研究科では、情報科学科の中に数理科学コースが新設され、学部学生が誕生しました（ちょっとした矛盾かも）。基礎工学部情報科学科数理科学コースの講義では共通教育から引き続いた統計数学の講義、統計システムソフトの講義と演習、ルベグ積分や確率関連の講義が準備され、大学院では統計解析、統計的推測、データ解析、時系列解析、多変量解析、計画数学や確率解析、確率微分方程式や年金数理などの計量ファイナンスの講義が多数準備されています。経済学、理学、医学、情報科学など、他の研究科の統計関連講義も自由に選択できます。おそらく日本で最も充実した統計関連講義と自負しています。

ただし、かつては定員を守らない修士課程に入学してくる少数精鋭の大学院生の多くは博士課程に進学しましたが、現在は昔よりはるかに多くの大学院生が在籍していますが、博士後期課程に進

学する者は稀です。研究職のポストも少なく、人数は増えましたが研究者養成の点では大変なピン

チに陥っていると思います。

2. 2010年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

－企画セッションの公募－

連合大会

実行委員会委員長 稲葉敏夫（早稲田大学）

運営委員会委員長 吉村 宰（長崎大学）

プログラム委員長 椿 広計（統数研）

2.1 2010年度統計関連学会連合大会について

2010年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合に参加している全ての学会、すなわち応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2010年9月5日（日）から8日（水）まで、早稲田大学早稲田キャンパスで開催いたします。

初日の9月5日は、市民講演会およびチュートリアルセッションを実施します。9月6日から8日までは、コンペティションや企画セッションなどの一般講演、ソフトウェアセッションなどを実施します。5-6日は、NPO法人横断型基幹科学技術研究団体連合が、第3回横幹連合シンポジウム（実行委員長：田村義保（統数研））を同キャンパスで開催し、統計関連学会連合大会と相互協賛する予定です。連合大会のWebページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>に関連情報が随時掲載されます。

2.2 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しております。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

また、企画セッションに関しましては、今回もこれまでどおり公募することになりました。広い意味で統計学の発展に寄与したり、統計学の社会的使命に関わる企画のご提案を歓迎いたします。また、横幹連合シンポジウムが同時期開催されますので、統計関連学会のみならず、統計のユーザーが多い学会、統計に数理的方法を供給している学会などとのジョイント・セッションなどの企画も歓迎します。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。

企画セッションの申込みに際しては、セッションのテーマとねらい、オーガナイザーの氏名・所属・連絡先、予定講演者と演題名を椿宛てメールにてお知らせください。企画セッション1件あたりの時間は120分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切り

2010年2月19日（金）

企画セッション応募先

連合大会プログラム委員長

椿 広計（統計数理研究所／筑波大学）

tsubaki@ism.ac.jp

2.3 その他の準備状況のご報告

2.3.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項はつき

の通りです。コンペティション講演は、研究内容
とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回
で8回目を迎えます。参加資格は2010年4月1日
時点で満30歳未満の若手研究者です。所属（大学
院生、教員、社会人）は問いません。連名講演の
場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表
する方です。なお、研究報告の申し込み時点で、
コンペティション対象者は、共催6学会のいずれ
かの会員でなければなりません（ただし、申し込
みと同時に入会手続きをする方も含みます）。

前回（同志社大学大会）と同様、前審査は行わ
ず、申し込んだ有資格者全員がコンペティション
に参加して頂けます。審査は、当日の口頭発表に
対して、数名の審査員と参加者の一般審査との総
合評価で行う予定です。

2.3.2 チュートリアルセッション、市民講演 会、ソフトウェアセッションについて

9月5日にチュートリアルセッションおよび事

実に基づく合理的意思決定を啓発する市民講演会
を開催すべく準備中です。多くの市民や研究者の
方々にとって有益な内容となるように講演者をプ
ログラム委員会で検討中です。また、6日以降に
はソフトウェアセッションを開催予定です。統計
に関係したソフトウェアに触れることができるよ
い機会にしたいと考えております。

2.3.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前 参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出
は基本的にホームページ上で行うこととします。
現在、委託業者と詳細を詰めているところですが、
それぞれの締切りは、一般講演申込の締め切りを
5月下旬とし、それ以降、報告集原稿提出および
参加事前申込の締め切りを設定させていただく予
定です。確定した期日などは具体的な企画ととも
に2010年4月ごろ第二報でお知らせいたします。

3. 日本統計学会春季集会2010開催案内

岩崎 学（日本統計学会理事長）
稲葉由之（春季集会担当理事）

下記の要領で第4回日本統計学会春季集会を開
催いたします。会員の皆様のご参加をお待ちして
おります。口頭発表セッションは招待講演のみで
すが、ポスターセッションでのポスター発表を廣
く募集いたします。ポスターセッションでの優れ
た発表に対して、実行委員会から「優秀発表賞」
と「学生優秀発表賞（学部あるいは大学院修士課
程に在籍している発表者を対象）」（今回新設）の
授賞を予定しております。また、懇親会も予定し
ていますので多数ご参加下さい。

春季集会の前日および前々日の3月5日（金）、
6日（土）に成蹊大学（東京都武蔵野市）にて統
計教育のシンポジウムが予定されています。詳細
は学会ホームページをご覧ください、こちらのほ
うもご参加いただければと思います。

なお、以下のプログラムでの講演題目は仮題で
変更になる可能性があります。また、懇親会につ
いての詳細は学会のホームページをご覧ください。

日 時：2010年3月7日（日）
10：00～17：30+懇親会
場 所：青山学院大学
（東京都渋谷区渋谷4-4-25）
参加費：無料（懇親会は有料）

プログラム
10：00～10：10
開 会：岩崎 学（日本統計学会理事長）
挨 拶：美添泰人（日本統計学会会長）

10:10-11:40

セッション1：高等教育における統計教育の分野別質保証に向けたガイドラインと評価の枠組み

オーガナイザー & 座長：竹村彰通（東京大学）

10:10-10:40

Gerald Goodall（Royal Statistical Society）The role of Royal Statistical Society in accreditation of university courses

10:40-11:10

Yuan Wei（中国人民大学）The Examination System for Professional Statistician in China

11:10-11:40

北原和夫（国際基督教大学）学術会議における分野別質保証の在り方の検討について

11:40-13:00：昼休み及びポスターセッション

13:00-15:00

セッション2：日本統計学会各賞受賞者講演
オーガナイザー：岩崎 学（成蹊大学）
座長：美添泰人（青山学院大学）

13:00-13:30 日本統計学会賞

吉田朋広（東京大学）確率過程の統計学：概観と展望

13:30-14:00 研究業績賞

駒木文保（東京大学）予測分布の理論とその周辺

14:00-14:30 研究業績賞

西山慶彦（京都大学）A Nonparametric Test for the Existence of Moments

14:30-15:00 小川賞

西山陽一（統計数理研究所）Entropy Methods and Martingales, with Applications to Statistics

15:00-15:30 ポスターセッション

15:30-17:30

セッション3：政府統計における調査方法の評価
オーガナイザー & 座長：舟岡史雄（信州大学）

15:30-16:00

会田雅人（総務省政策統括官（統計基準担当））
統計調査の組織系統と統計の精度

16:00-16:30

廣松 毅（情報セキュリティ大学院）統計調査の民間開放の現状と問題点

16:30-17:00

土屋隆裕（統計数理研究所）統計調査における外部委託や調査法の変更の調査精度への影響

17:00-17:30 総合討論

17:30 閉会 美添泰人（日本統計学会会長）

18:00-20:00 懇親会

○ポスターセッションの申し込み

以下の内容を記入してメールにて

poster-haru10@jss.gr.jp

宛にお申し込みください。

1. 氏名（ふりがな）、所属
2. 発表のタイトル
3. Emailアドレス
4. 旅費、滞在費（一泊）のサポート希望の有無

4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について

岩崎 学（日本統計学会理事長）

「第4回日本統計学会研究業績賞」および「第3回日本統計学会出版賞」の受賞候補者推薦を下記により募集いたします。推薦書の書式は全て学会ホームページからダウンロード可能です。不明な点は学会事務担当者にお問い合わせください。上記2賞の推薦締切りは2010年4月23日（金）と

させていただきます。

日本統計学会賞、統計活動賞、統計教育賞の3賞につきましては6月上旬を締切りとし、4月下旬発行の会報で改めて推薦募集のご案内を申し上げます。なお、これらの賞に関しましても推薦書の書式は既に公開されておりますので、早期の推

薦を妨げるものではありません。

推薦書の宛先は下記の通りです。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

(財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX 03-3234-7738

E-mail: shom@jss.gr.jp

[対象範囲]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

[推薦方法]

各賞受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、それぞれの賞の選考委員会が実施する。

受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。

[発表]

各選考委員会は、選考結果を日本統計学会評議員会及び総会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、研究業績賞と出版賞の概要と規程を以下にご紹介します。

日本統計学会研究業績賞

[名称]

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

過去3年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする。受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

受賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員

会が会員および学会誌編集委員会からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。

- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[名称]

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究、教育あるいは啓蒙)を出版した著者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する研究、教育あるいは啓蒙上の図書。

- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

受賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員および学会誌編集委員会からの推薦を受けて選考する。選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名

- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

5. シリーズ：統計学の現状と今後「空間データの分析法の現状と問題」

松田 安昌（東北大学）

空間データを分析する目的のひとつにkrigingがある。Krigingとは未観測の地点における値をデータから予測することで、実務家から切実に求められる問題に対して多く利用されてきた。例えば鉱山技師による油田の探索や、生態学者によるある生物の個体数の推定などがある。相関構造を既知とすれば未観測地点の最良線形予測量を容易に構成できるため、krigingは相関構造さえわかれば単純な問題である。しかし相関構造をモデル化し空間データからそのパラメータを推定する際に困難な点がいくつかあり、統計学者が解決に取り組んできた。本稿ではその現状とこれからの展望を紹介する。

空間データには格子点上で観測されるメッシュデータと不規則に散らばる地点で観測される不規則データがある。メッシュデータは時系列の自然な拡張とみなせるため、時系列分析の手法が適用可能で研究成果も多い。一方、不規則データは、GPSに代表される近年の技術の進歩により数万から数十万の莫大な地点を観測することが可能となって応用上強い関心を持たれているにもかかわらず、よく研究されているとはいえない。統計家が不規則データを敬遠する理由は、独立なデータ分析からはじまった統計学の標準から逸脱しているためだと思われる。以下、大量の不規則データ分析法について紹介する。

まず、不規則データ分析の難しさは推定量の構成にある。相関構造をモデル化し、そのパラメータを推定するために正規性を仮定して最尤法を適用しようとしても、相関行列が莫大な次数を持つため尤度関数を現実的な時間で計算することができない。データ数が数万地点ならば相関行列は数万次の行列になり、尤度関数を評価するために数万次行列の逆行列の計算を要するためである。さらに観測地点が密集していれば相関行列が特異に

なりやすく、逆行列の評価を難しくする。

尤度関数によらない簡便な推定法として重みつき最小二乗法がある。これはいわばモーメント法を空間データに拡張したもので、標本共分散関数とモデル化した共分散関数の二乗誤差の和を最小化するように未知パラメータを推定する。ただし、空間データでは共分散の代わりに数学的には同値なバリオグラムとよばれる量を用いる伝統があるので注意を要する。この方法は明快で計算も容易なので、計算機の発達していなかった頃から共分散構造の推定によく用いられてきたようである。しかしこれはモーメント法的一种であるから推定精度はよくないものと思われ、推定量の良さを最尤推定量の有効性のように評価することもできない。

Stein et al. (2004) は、重みつき最小二乗法によらず不規則データの尤度関数を効率的に近似する方法を提案した。この方法は、時系列分析の自己回帰モデルを空間データに拡張したものである。データが観測された空間を適当なメッシュに分割し順番をつけ、条件つき尤度の積として評価する。その際、条件つき尤度の計算を簡略化するために、所与とするデータの中から一番近いものと一番遠いものだけを選択する。一番近いところだけを所与とする自己回帰とはここが異なる。遠いところを条件つきに含めたことがStein et al (2004) の特長である。

この方法はモーメント法の拡張である重みつき最小二乗法とは違って最尤推定量の近似であるから推定精度は上がると期待される。実際Stein et al (2004) はいくつかの具体例で尤度の近似制度が高いことを実証している。ただし、この方法にはメッシュの大きさ、順番のつけ方、条件つけするデータの数の選び方に恣意性がある。さらにデータ数が数千のオーダーが扱える限界で、数万を越

えるところの方法でも対応できない。

Matsuda and Yajima (2009) は、数万を超える莫大な不規則データに対して周波数領域における尤度近似の方法を提案した。この方法ではデータをフーリエ変換してピリオドグラムと呼ばれる量を構成する。データとピリオドグラムは数学的には同値であり、それぞれを空間領域と周波数領域におけるデータの表現とみなすことができる。ところがピリオドグラムは空間領域にはない著しい特長である漸近独立性をもつため、尤度関数が Whittle 尤度という単純な形に帰着してデータ数がいくら増えても尤度計算を一次元の割り算で済ますことができる。さらに、時系列では古典的な Whittle 尤度推定量の漸近有効性の議論を空間データにも拡張することができる。本方法の特長は、空間データを空間領域から周波数領域に変換することであり、その結果得られる計算の高速性と推定量の良さの数理的評価である。

空間データの周波数領域における分析の有効性は他にも考えられる。例として共分散関数の滑らかさを推定する問題を紹介する。kriging は共分散

関数の滑らかさに大きく依存しており、それを特に過大に評価すると予測に致命的な影響を与えてしまう。そこで smoothing parameter という共分散の滑らかさを記述するパラメータをデータから推定することが実用上重要となる。共分散関数そのものではなくその滑らかさを空間領域で推定することは難しく、有効な方法はまだ確立されていない。しかし周波数領域に変換すれば、共分散関数の滑らかさはスペクトル密度関数の減衰速度になる。関数の減衰オーダーは滑らかさよりも捉えやすいので、smoothing parameter の推定には周波数領域が有利であることが期待される。このように空間領域と周波数領域を問題によって適切に使い分けることで、空間データ分析法の選択肢を広げることができる。

以上、空間データ分析法について紹介してきたが、今後は時空間データへの拡張が重要な問題になるだろうと考えている。特に時間相関と空間相関の相互作用をどのようにモデル化し未来予測・kriging に応用するかに工夫する余地が十分に残されている。

6. 海外研修記「スタンフォード滞在記」

二宮 嘉行 (九州大学)

私は、文部科学省の海外先進教育研究実践支援(研究実践型)という大学教育の国際化加速プログラムに採択された計画にしたがい、スタンフォード大学統計学科の客員研究員として、アメリカ・カリフォルニア州のパロ・アルトという町に滞在してきました。このプログラムは以前のタイプの“在外”がなくなってからできたものですので、それに近いように思われています。実際はより教育への貢献を目指したものでして、支援額は以前のように多くはありませんし、年度中に終わらせなければならないという制約もあります。2008年度では採択結果が5月に発表されましたので、実質的には後期からの半年間のプログラムでした。しかし、私は幸運にも学科からプログラム

後のさらなる滞在を許され、2008年度後期から2009年度前期にかけて、計1年と1ヶ月滞在させていただきました。

まずは生活について書いてみようと思います。これについては、家賃以外は文句のつけようがありませんでした。パロ・アルトはビバリーヒルズを抜いて全米トップの高級住宅街になったといううれしくない話があるくらいの町です。滞在中のアパート代だけで支援額を超えてしまいました。しかし、そのぶん安全なところでした。アパートを決める際には「進入されるかもしれないから二階ですら嫌だ」と言って管理人をあきれさせていたくらいでしたが、すぐに夜中の二時三時でも自転車で走るようになりました。また、通説どおり

のことで、カリフォルニアには多くの人種が存在しているため、差別のようなことはほとんど感じませんでした。明るく優しい人が多く、町にいてもしょっちゅう話しかけられました。まあ何を言っているのかはわからないんですが、天候はもちろんのこと、食べ物もよかったです。例えば牛肉については、日本の普通の牛肉よりだいぶ美味しいものが日本の半額で買えました。牛100%のハンバーガーを毎日食べたいという願いこそ妻に却下されましたが、毎日のように家で牛肉を食べさせてもらいました。カリフォルニアで有名なワインもやはり素晴らしく、20ドルも出せば十二分に美味しいものが手に入るということで、これもほぼ毎日楽しみました。ちなみに、ビールの量が減ったせいか、いつ痛風が発症してもおかしくない高さだった尿酸値も、帰国後の検査で平常値に戻っていることがわかりました。

さて、スタンフォード大学統計学科の研究・教育環境について書いてみることにします。まず、20人ちょっといるスタッフのほとんどがスターといってよい場所だけあり、週2回ある統計セミナー（統計一般とバイオ統計）では最先端かつレベルの高い講演が常におこなわれていました。また、各学期大学院生むけの授業が5、6コマあり、教えるスタッフがスタッフなだけに魅力的なトピックが扱われていました。どの授業でも「聴講していいよ」と言ってもらえましたが、1コマが50分×3回/週あるいは75分×2回/週あるので魅力的な授業すべてに参加するわけにはいかず、「ダイアコンス教授の授業は難しいしあきらめよう」などと贅沢な選択をしました。

ちなみに、修士院生および博士1年生は3、4コマほど、博士2年生以上は自身の研究に近い1、2コマほどの授業をとっているようでした。単位をとることはやはり容易ではないらしく、毎日のように空き部屋に集まって議論していました。博士課程に進学する道は狭く、進学のためそして奨学金を得るためには良い成績が必要ということで、特に進学を目指している院生はずっと勉強していました。その状態が博士1年か2年時に行わ

れる博士候補生になるための試験に通るまで続くのですから、彼らの統計学の基礎知識は相当なものでしょう。彼らは博士候補生になってから本格的に研究を始めます（修士論文は書きません）。その研究はかなりの部分が独力で行われ、スーパーバイザは指導するというよりアドバイスするという役割であるのが通常のようにでした。したがって、博士号の取得には博士課程に進んでから5年ほどかかるのが普通だそうです。このような状況ですから、彼らの博士号取得直前の講演が面白くレベルの高いものであったことは言うまでもありません。

統計セミナー・授業・院生の講演会などに参加することが楽しい一方で、上で書いた院生の環境からもわかるように、研究室単位のゼミのようなものが（少なくとも表面的には）なく、スターたちの研究模様を垣間見ることができなかったことは残念なことでした。ポストクや私のような客員研究員が少なかったことも不運でした。その状況の中でいつも気にかけてくれ、スタンフォードにいるときは週一度時間をとってくれたホストのジョナサン・テイラーさんには感謝の気持ちでいっぱいです。私と同学年でありながら既に私の研究分野の第一人者であるテイラーさんは、多忙で不在が多かったことは事実ですが、天才的な力というものを私に体感させてくれました。今は途中段階ですが、ディスカッションしたいいくつかの研究を実現していきたいと考えています。また、テイラーさんのオーガナイズにより、私は統計セミナーで講演させてもらったのですが、それは素晴らしい経験となりました。目の前第一列にエフロン教授、アンダーソン教授、オルキン教授と並び、震えざるを得ませんでした。講演後はエフロン教授が「アイム、ブラッド」と話しかけてくれ（そりゃ知ってるよ、というかんじですが）、アドバイスをくれると同時に、結果を表す私の幾何図形を面白がってくれました。現在それは自慢の図として各講演で使っています。

とにかく、もう二度と味わえないような貴重な経験を積むことができたと思っています。海外長

期滞在を快く許して下さった九大数理、特に統計部門の皆様方に、そしてこの滞在に関してアドバイスをくださった方々に、この場を借りて感謝

申し上げます。この経験を活かし、統計界に少しでも貢献できるよう努力していきたいと思えます。

7. 日本経済学会連合からのお知らせ

坂野慎哉，西郷 浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り平成22年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には理事会で選考いたします。募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください。

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

(a) 目的：

加盟学会の会員が、平成22年4月1日から平成23年3月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

(b) 補助額：

原則として開催地により6段階（15万円から40万円まで5万円刻み）とする。

(c) 募集時期：

第1回：平成22年2月10日

（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第2回：平成22年5月末日

（日本統計学会事務局宛の締め切り）

注) 第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときにのみ応募する。

(d) 応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること、申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること。被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の期間から補助を受けていないこと。申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。

(e) 備考：

申請には、当該国際会議に関するインフォメーション（レター、プログラムなど）を添付すること。また、補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある。

8. 評議員会議事録

2008・2009年度第3回評議員会議事録

日 時：2009年9月6日（日）18：50～20：20

場 所：同志社大学 今出川キャンパス 寒梅館
6階会議室

出席者：美添泰人会長，岩崎学理事長，評議員：
稲葉弘道，今井英幸，狩野裕，川崎茂，川崎能
典，倉田博史，栗木哲，桑原廣美，西郷浩，佐
藤学，杉山高一，高橋一，竹村彰通，田中勝人，

田村義保，椿広計，富澤貞男，中野純司，藤井
良宜，舟岡史雄，水田正弘，安田聖，山下智志，
若木宏文（以上26名，委任状11通）（オブザー
バ：中西寛子）

冒頭，美添会長より定足数確認，開会宣言がな
され，オブザーバ1名の参加が承認された。

報告事項：

<議題1>理事会からの報告

美添会長より、各事業が例年通り順調に進んでいるとの報告があった。

<議題2>学会賞各賞および小川研究奨励賞受賞者について

美添会長より、資料に基づいて各賞の受賞者が紹介された。

<議題3>各委員会からの報告

[学会活動特別委員会、学会組織特別委員会]

委員会活動は問題なく進められているとの報告があった。

[統計教育委員会]

藤井委員より、資料に基づき2ヵ月ごとに行っている活動内容について報告があった。

<議題4>第78回大会について

美添会長より、第78回は早稲田大学早稲田キャンパスにおいて、9月5日～8日に開催される予定であることが報告された。

<議題5>入・退会者について

倉田理事より、回覧資料に基づき説明があり確認された。

<議題6>その他

- ・竹村委員より、統計学の“分野別質保証”に関わる検討課題等についての資料が配布され、今後、この議論をするための協力者を求める予定であるとの説明があった。また、それについての意見が出された。
- ・杉山委員より、統計関連学会連合および連合大会のメリット・デメリットについてまとめ、今後の連合の方向性を含め検討して欲しいとの意見が出された。
- ・岩崎理事長より、理事4名の交代と選挙管理委員1名の交代について報告があった。

審議事項：

<議題7>2008年度事業報告案、同決算案および会計監査について

倉田理事より、資料に基づき2008年度の事業報告案および決算案が、高橋監事より監査の結果が

それぞれ報告され、了承された。

<議題8>2009年度事業計画案、同予算案について

山下理事より、資料に基づき2009年度の事業計画案および予算案が説明され、了承された。

<議題9>総会の式次第について

美添会長より、資料に基づき総会の式次第が説明され、了承された。

<議題10>名誉会員の推薦について

岩崎理事長より、資料に基づき前会長北川源四郎博士を名誉会員に推薦することについて説明があり、了承された。

<議題11>会費滞納会員について

会費滞納会員に関しては、理事長名による会費納入の督促と退会の意思確認のための連絡をしてから、次回の評議員会で退会を認めることとした。

<議題12>研究分科会新設について

美添会長より、研究分科会新設申請書に基づき「金融の計量リスク管理分科会」の発足について説明があり、了承された。

<議題13>その他

杉山委員より、学会に貢献された会員に対して無償会員制度を作ってはどうかとの意見があった。

2008・2009年度 第4回評議員会議事録

日時：12月5日（土）14：00～16：00

場所：統計数理研究所 セミナー室1（D207）

出席者：美添泰人会長、岩崎学理事長、評議員：大林千一、狩野裕、栗木哲、西郷浩、高橋一、竹村彰通、椿広計、中野純司、舟岡史雄、矢島美寛、山下智志、美添泰人、若木宏文（以上15名、委任状22通）、（オブザーバ：中西寛子、各務和彦）

冒頭、会長より評議員会の成立が宣言された。

報告事項：

<議題1>理事会からの報告

岩崎理事長より、1）2010年度連合大会は9月に早稲田大学で開催されること、2）連合大会に

において日本統計学会主催「韓国・台湾・日本の国際セッション」が無事終了したこと、3) 科学研究費(欧文誌出版助成)を申請したこと、4) 名簿作成の進捗状況、5) 出版賞金について75周年記念事業基金からの学会会計への組み入れ処理をすること、6) IMS (Institute of Mathematical Statistics)が2年後に日本で開催するため本学会も参加学会としてサポートすること、が報告された。

〈議題2〉春季集会について

美添会長より、2010年3月7日に青山学院大学で開催される春季集会のプログラムの概要と懇親会の計画が報告された。

〈議題3〉2009年度学会賞関係会計報告

山下理事より、資料に基づき2009年度学会賞関係の会計が報告された。

〈議題4〉各委員会からの報告

[学会組織特別委員会]

矢島委員長より、1) 各賞の選考方法、2) シニア会員について、3) 学会誌の編集理事の任命および任期について、議論されていることが報告された。

[統計教育委員会]

中西委員より、第6回統計教育方法論ワークショップが2010年3月5日、6日に成蹊大学で開催されることが報告された。椿委員より、統計教育普及に関して日本品質管理学会との連携に関する話し合いが進められていることが報告された。

〈議題5〉入退会者承認

山下理事より、回覧資料に基づき入退会者が紹介された。

〈議題6〉その他

山下理事より、理事会における1) 名簿作成の進捗状況、2) 学会規程の改正、3) 学会誌の電子化の進捗状況、が報告された。美添会長より、60周年記念事業基金に関して、今後の活動方策が検討されていることが報告された。

審議事項：

〈議題7〉会費滞納者の取り扱いについて

山下理事より、回覧資料に基づき会費滞納者を退会とみなすことが承認された。

〈議題8〉事業仕分等に対する学会からの提言

岩崎理事長、美添会長より、国勢調査に代表される公的統計に関する提言、研究費の削減(特に先端研究、若手研究)に対する提言を日本統計学会から行うことが提案され、文言の修正等を岩崎理事長、美添会長に一任した上で提言を行うことが承認された。

〈議題9〉その他

大学教育の分野別質保証の問題において、統計学に関してはRSSにおける資格認定事業が参考になる。来年3月に開催される日本統計学会春季集会の機会に、英国からの講演者と意見を交換したいとの提案があった。

2008・2009年度 評議員会メール会議議事録

審議事項：

・次回評議員選挙と会長選挙の選挙管理委員選出について

東京理科大学理工学部の岩下登志也氏を選出することとした。

9. 理事会議事録

2008・2009年度 第5回理事会議事録

日時：11月14日(土) 12:00～2:00

場所：統計数理研究所 第1セミナー室 D207

出席者：美添泰人会長、岩崎学理事長、渡部敏明(会誌編集・和文)、根本二郎(広報・HP)、内田雅之(広報・会報)、江口真透(渉外・一般)、

稲葉由之(大会・プログラム)、星野伸明(大会・プログラム)、古澄英男(大会・運営)、橋口博樹(大会・運営)、山下智志(庶務会計)、中西寛子(庶務会計)、久保田貴文(広報・ウェブ) (以上13名、カッコ内は役割分担)

報告事項：

<議題1>会長からの報告

美添会長より、2009年度統計関連学会連合大会が無事終了したこと、また、来年度は早稲田大学にて開催され、本年度と同じ6学会が参加する予定であるとの報告があった。

<議題2>理事長からの報告

岩崎理事長より、2年目から交代になった4人の理事の紹介があった。

<議題3>各理事の報告

各理事から以下の報告があった。

[和文誌]

渡部担当理事より、印刷業者の変更により発刊が少し遅れていること、また、論文誌の全体の見直しをしているとの報告があった。

[広報(会報)]

内田担当理事より、会報141号が発刊されたことが報告された。また、次号の掲載記事について担当者を決めた。

[広報(ウェブ)]

久保田幹事より、順次HPの更新を行っていることが報告された。

[渉外(海外)]

前園担当理事より、連合大会において日本統計学会主催「韓国・台湾・日本の国際セッション」での講演が予定通り行われ、講演者と同伴者を懇親会に無料招待したことが報告された。これについて、連合大会での懇親会招待について混乱がないようにより配慮すべきであるとの意見があった。ついで、2010年度は韓国にて開催されるとの報告があった。

[大会プログラム]

稲葉担当理事より、2009年度統計関連学会連合大会は問題なく実施できたとの報告があった。来年度の企画セッションに関してどのようにすべきか問題提起され、6月までに計画することとした。

[大会運営]

橋口担当理事より、2009年度統計関連学会連合大会について盛況に終わったとの報告があった。2010年度連合大会への引き継ぎに関する注意点が

説明された。

[庶務会計]

山下担当理事より、各賞に関する会計報告がなされた。

<議題4>科学研究費申請の報告

中西理事より、科学研究費(欧文誌出版助成)を申請したことが報告された。

<議題5>名簿作成の報告

山下理事より、名簿作成の年度にあたるため仕事を進めていることが報告された。

<議題6>75周年記念事業基金の事業と会計処理

山下理事より、75周年記念事業基金から出版賞基金および出版助成金についての学会会計への組み入れ処理をすることについて説明があった。これに関連して、岩崎理事長より75周年記念事業に関するWEBページについては照会中であるとの説明があった。

<議題7>その他

岩崎理事長より、2nd IMS-APRM (Institute of Mathematical Statistics - Asia Pacific Rim Meeting) が2年後に日本で開催される予定であり、本学会は主催学会の1つとして竹村彰通氏を中心に実行委員会を発足させ準備に取りかかっている旨が報告された。

稲葉理事より、2010年3月7日(日)に開催予定の春季集会(青山学院大学)で行う特別セッションやポスターセッションなどに関する進捗状況について報告があった。

審議事項：

<議題1>学会諸規程の改正

山下理事より、学会諸規程の字句に関する改正が数カ所、必要であることが説明され、それらの改正を承認した。

<議題2>入退会者承認

山下理事より、入退会者について回覧資料を用いて説明があり、それが承認された。

<議題3>滞納者について

山下理事より、会費滞納者に関して理事長名により督促状を出し、その後の経過について説明が

あった。返事のない方については退会と見なすこととし、評議員会に諮ることとした。

＜議題4＞その他

・山下理事より、学会誌の一部が電子化されていないとの報告があり、今後、対応することとした。

・会員の増強についてどのようにすべきか議論した。今後も意見を求めることとした。
・高齢特別会員についての対応について議論した。現在の規則を見直す可能性について評議員会に諮ることとした。

10. 研究集会案内

●統計情報セミナー『人口減少社会における地域政策のための統計とGIS』

講演内容：

「平成22年国勢調査の実施計画と結果の利用」
羽淵達志（総務省統計局統計調査部国勢統計課調査官）、「G-Censusの紹介とバージョンアップ計画」
小西 純（（財）統計情報研究開発センター研究員）、「統計情報の簡便な活用事例」
吉川耕司（大阪産業大学人間環境学部生活環境学科教授）

日時・場所：

【大阪】2010年2月9日（火）大阪国際会議場12階「1202室」

【東京】2010年2月18日（木）ベルサール神保町3階「ROOM3・4・5」
（両会場とも13：30～16：30）

参加費：無料

当財団ホームページ（<http://www.sinfonica.or.jp>）よりお申し込みください。締切は2月5日（大阪）、2月12日（東京）です。

お問い合わせ：（財）統計情報研究開発センター
TEL 03-3234-7471

11. 新刊紹介

本会会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●山村重雄，松林哲夫，瀧澤毅著『薬学生のための生物統計学入門』みみずく舎・発行/医学評論社・発売，（3400円＋税）2009年10月

薬学教育モデル・コアカリキュラム C17医薬品の開発と生産（5）バイオスタティスティクス
の教科書として、『生物統計学の基礎』と『臨床への応用』を薬学生の高校大学での数学の履修状況を考慮して執筆した。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2009年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

橋本 智雄 会員

入会承認

岩崎匡泰, 矢部竜太, 山内禎祐 (敬称略)

退会承認

内山常雄, 築林昭明, 富士フィルムRIファーマ株式会社 (賛助会員) (敬称略)

長期間連絡不能により退会したとみなされた会員
安達健, 飯田博和, 飯渕芳美, 石田晃, 市川薫,
岩本茉莉, 大澤志乃, 甲斐正樹, 笠原幹, 上辻茂
男, 國本征史, 隈本英樹, 蔵下勝行, サージンダ
ー シン, 園田明正, 中嶋優一, 森永亘, ラウシ
ン グアン (敬称略)

現在の会員数 (2009年12月5日)

名誉会員	20名
正会員	1,365名
学生会員	48名
総計	1,433名
賛助会員	16法人
団体会員	5団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先:

〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3
大阪大学大学院基礎工学研究科
社会システム数理領域
内田 雅之 宛
Tel & Fax : 06-6850-6465
E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用e-mailアドレス)

- 統計学会ホームページURL :
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページURL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 75周年記念事業ホームページURL :
<http://www.math.chuo-u.ac.jp/~sugiyama/jss75>
- 住所変更連絡用e-mailアドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用e-mailアドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用e-mailアドレス :
shom@jss.gr.jp